

日本原子力学会シンポジウム
 「東京電力福島第一原子力発電所事故後の環境回復の取り組み」
 —除染の現状と低線量被ばくについて—

1. アンケート回収状況	1
2. 今回のシンポジウムについて	1
2. 1 企画について	1
2. 2 講演内容、分かりやすさについて	4
(1)除染の状況報告	4
(2)Cs の土壤中の挙動及び構造と廃棄物処理	5
(3)放射線モニタリングと健康影響	6
(4)福島第一原子力発電所の状況報告	8
(5)福島県の取組み	9
2. 3 今後の企画について	10
2. 4 その他	11
附録 アンケート集計総括表	13

1. アンケート回収状況

- (1)アンケート回収数 49名
- (2)内、有効回答数 48名
- (3)アンケート回答者内訳

参加者	人数	
福島県民	16人	33.3%
福島県内自治体関係者	3人	6.3%
原子力学会員	11人	22.9%
報道関係者	2人	4.2%
その他	12人	25.0%
無回答	4人	8.3%
計	48人	100%

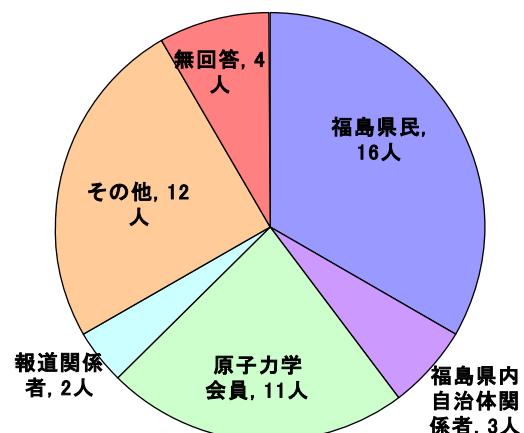


図 1.1 アンケート回答者内訳

2. 今回のシンポジウムについて

2. 1 企画について

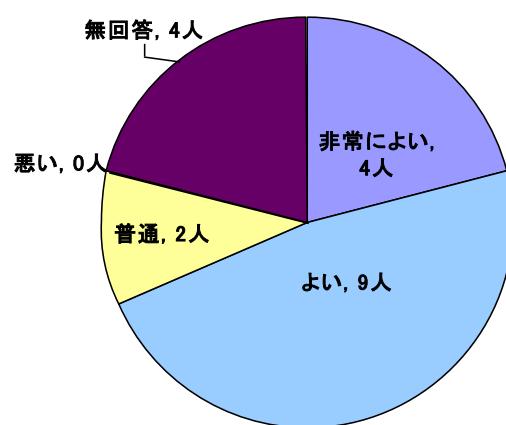
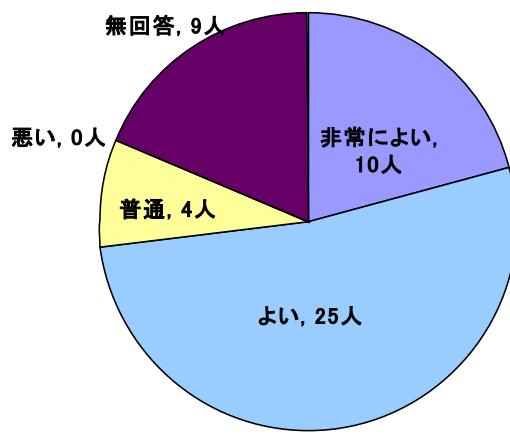


図 2.1 企画について

①福島県民の方から頂いたコメント

- 質問時間をもっと十分取ってほしい。
- 事故に伴う環境汚染からの脱却（環境回復）には相当の時間と資源が必要と考えられる。このような地道は専門家集団の技術的支援は不可欠と思われる所以、このような観点での継続的な取り組みは必要と考えている。
- 素人にもわかり易い内容で良かったが、一般の参加が少ないような気がする。周知は不足しているのではないか？
- 除染情報プラザで行われた講演会の際にこのシンポジウムの存在を知りました。「日本原子力学会」というところの講演会（シンポジウム）は初めてで、大変興味深く話しをきかせていただきました。個人的には副題にもある”低線量被ばく”についての低線量被ばくに関して、もっとつぶ込んだ話が聞きたかったです。
- 福島で行なうという事は大変良いと思う。是非続けて頂きたい。
- 現状について複数の視点で考察があり、濃い内容
- 定期的にシンポジウムを実施している事は大変良いと思う。ただ、専門用語が多い為、一般市民にも解りやすい内容を望む。
- 定期的な報告、その時その時の話題を取り上げて今後も定期的に開催してください。
- 「除染の現状と低線量被ばくについて」でしたがこれは何だったのか分からぬ。このシンポジウムのテーマではあったが期待はずれ…

②福島県内自治体関係者の方から頂いたコメント

- 多方面からのテーマを上げておりよかったです。また、東電の話が聞けてこのようなシンポジウムでしかできない内容だった。定期的に開催してほしい。
- 時期時期で現状を確認できるこうしたシンポジウムは大変重要であると思います。

③原子力学会員の方からいただいたコメント

- よい企画だったと思います。うる所がありました。
- 新聞、テレビ、他メディアで報じられている以外の細かい情報が得られてよかったです。具体的な福島県の市町村の取り組み、東電、メーカーの取り組みと進捗を理解することができた。
- タイムリーな企画で良い。大変参考になりました。
- このようなシンポジウム開催は大変よいことだと思います。福島県民の参加が少ないよう見受けられるが広く広報することが求められるように感じた。
- 今後も実施してほしい。
- 適時、適切、感心の高い一般にインプットすべきと考えるテーマが企画に含まれており非常に良い。また、アカデミアから専門家の報告ということでスピーカーの選考方針も良いと考えられる。
- 除染にかかる Cs の挙動をまとめて情報発信するべきではないか。Cs は Na や K の親せきでありウェザリング等により、通常の場所の Cs はほぼ海に流されている。土の中の Cs は吸着安定化しており、中間貯蔵において漏れ出すおそれはない。また、現在の放射能は Cs のみであり、この被ばくによる健康影響は福島原発付近を除いてほとんどないと考える。（Cs の外部被ばくは紫外線の影響と比較して考えるとよい）（Cs は体外に取り込んでも新陳代謝により排出され、天然の K-40 と同様に考えられる。）

④報道関係者の方からいただいたコメント

- さまざまな視点から除染のあり方や放射性物質の廃棄のあり方について考える会でよかったです。ただ、一般市民は、放射性物質についてあまり知りません。原子力発電所の事故の放射線は悪で、レントゲン等の放射線は、放射線ととらえていないのかも知れませんが、悪とは思っていません。病気発見のために仕方ないものと思っています。温泉などは体にいいものとさえ思っています。放射線についてすごく基本的にはことで学びなおすような内容もあってよいのではないかでしょうか。

⑤その他（所属無回答含む）の方からいただいたコメント

- 現在問題になっていること、解決が迫られていることを真正面から解説していただけた。
- 市民として参加しました。今回の案内は知人（原子力関係、当学会員より）連絡受けました。市民への広報は？（平易な内容なので）
- 事例発表を企画してほしい。

- 一般住民の方々の参加が見込まれる場合（シンポジウムであればなおさら）
 - ・わかりやすく
 - ・かつ「安心」につながるような説明が必要（技術的な内容は特に）
- 途中退席で恐縮ですが大変参考になりました。ありがとうございます。県外からの参加ですが福島県下における研究成果を伺うことができるのは大変ありがたく、またこのようなシンポジウムが福島県外でも開催されることを期待しております。
- 初めて出席したので特にコメントはありません。
- 多くの分野の方々がそれぞれのお立場から御講演なさり、理解が深まったと思います。
- リスクコミュニケーション（リスクとは未来における可能性のある危険）除染のリスク-除染のゴミ置地、除染員の健康-リスクは重要な要素、相互理解に至る要因
- 資料がカラーだともっとわかりやすいがコストの面からむずかしいですね。
- 企画の内容はタイムリーで大変よろしいと思います。

2. 2 講演内容、分かりやすさについて

(1)除染の状況報告

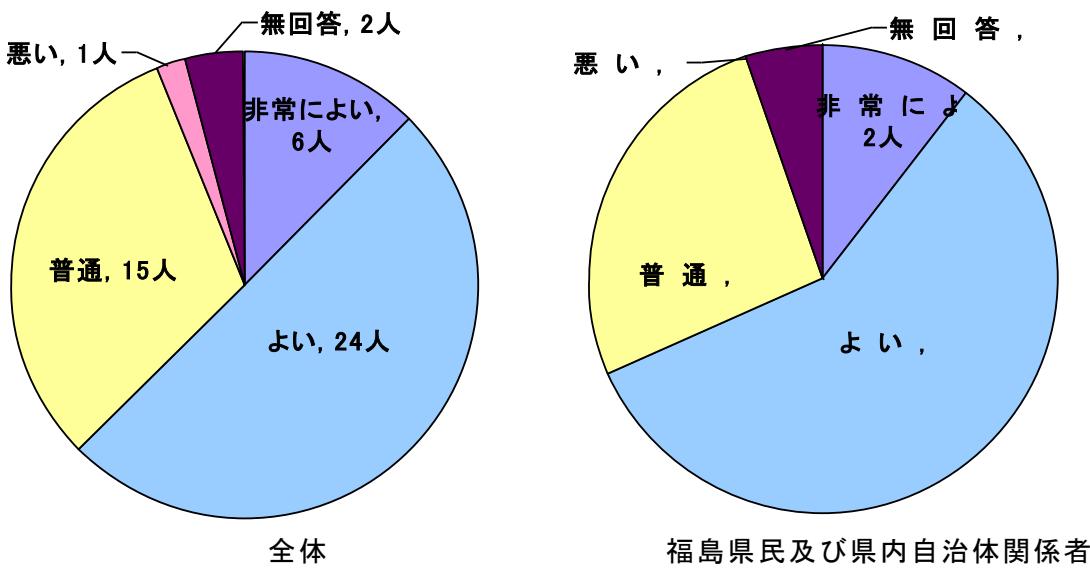


図 2.2 除染の状況報告

①福島県民の方から頂いたコメント

- 汚染作業の進捗が当初計画から大幅に遅れたことの要因を明らかにした。しかしその要因をもう少し深堀りした対応が必要でないかと考えている。
- 除染状況が解りました。情報源確保ができました。
- 全体の概要が把握できた。しかし、実態の報告と今後についてやや不足を感じた。
- 話の内容が単調でもう少しメリハリを付けてほしかった。
- もっと再生事務所内での色々な議論、課題等を説明してほしかった。
- 「リスクコミュニケーション」ですか？住めるか住めないか分からぬ地を（現在は住んでいない）何のためにというと（言い方はおかしいかも知れないが）ほじくりまわしているのか分からない。（お金をかけて）
- 住民に寄り添うということは、住民の要求をすべて受け入れることなのか？大変疑問です。リスクトレードオフの考え方を基本に、コストを考慮してやらないことと代替案を提案することを本気で考えて下さい。

②福島県内自治体関係者の方から頂いたコメント

- 除染の状況をわかりやすく説明していただきわかりやすかった。
- 福島県外の情報の発出をお願いしたい。

③原子力学会員の方からいただいたコメント

- 除染のスピードアップは、コミュニケーションが最も大事との話には共感した。
- 除染の効果による低減率なのかウェザリング効果や、半減期による減衰なのかもう少し情報があるとありがたいです。
- 除染の現状が理解できた。
- 何が技術的課題かを明確にする必要がある。
- ・除染のモデル動画という可視化の検討を行なってほしい。
 - ・Cs-137とCs-134の半減期による減衰と除染の区別の評価はされているか。
- 歯切れが悪く、前置きが長い点で講演のポイントがわかりづらかった。また、Q&AにおいてもQに直接的に回答できていない様子であった。

④報道関係者の方からいただいたコメント

- 地方の方々とのコミュニケーションのむずかしさを話されていましたが、なぜコミュニケーションがむずかしいのか、どういう話をして、どこが聞いてもらえていいのか等のくわしい分析をシンポジウムで正直に言うべきだと思います。

⑤その他（所属無回答含む）の方からいただいたコメント

- 現在多くの方々が知りたいことなのでよかったです。できるなら B ゾーン、C ゾーンについても知りたかった。
- 情報の可視化が必要。細やかな対応が必要（住民に対して）
- 中間貯蔵施設についての進捗状況の話がお聞きできたらよかったですと思いました。
- プレゼン方法を訓練した方が良い。
- 除染効果について具体的な数値を示して詳しく説明された方がよいと感じた。
- とてもわかり易い御説明でした。悩んでおられる点が理解できました。
- Q&A が特に興味深かったです。（資料もわかりやすかったです）
- パワーポイントを指し図しての説明をしてほしかった。

(2) Cs の土壤中の挙動及び構造と廃棄物処理

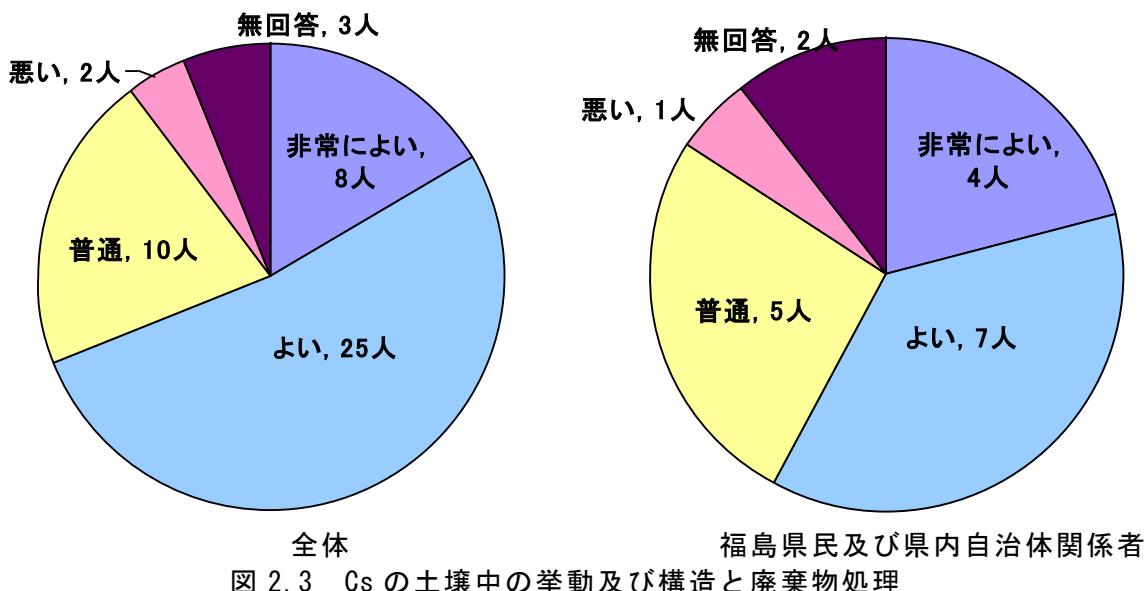


図 2.3 Cs の土壤中の挙動及び構造と廃棄物処理

①福島県民の方から頂いたコメント

- いろいろ研究していただいているんだと少し安心しました。
- 難しい内容をわかり易く説明され、大変良かった。「土ぼこり」とセシウムの結びつきの説明が欲しかった。
- 大変良かった。資料が多く多少むづかしかった点もある。
- 放射性セシウムは「土壤中の粘土鉱物に強く固定されていて脱離することは少なく土壤（特に微細土）と一緒に移動することが支配的」と言われているとの報告であった。この点理論的なところをもう少し時間を割いて説明してほしかった。その理由は除染や土壤の減容化に当って重要なポイントとなるからです。
- 解りやすい説明で良かった。
- もう少し図表の解説をゆっくり、わかりやすくしてほしかった。
- むづかしい。表の意味分からず（後でお聞きした）
- 説明が難解でもう少し解り易く説明してほしい。特に質問に出たように水に溶出しないのに植物移行が問題になる事の矛盾、原因等何に注目すれば良いのか知りたい。興味深い内容だったので残念です。

②福島県内自治体関係者の方から頂いたコメント

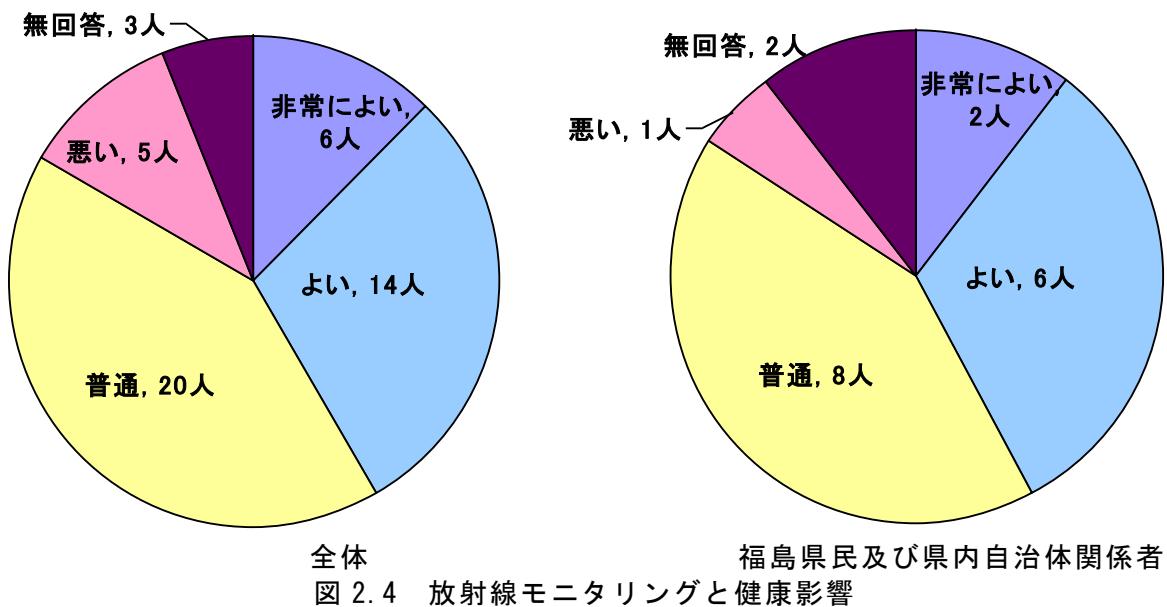
- まさに、様々な研究機関で研究されている内容でまだわからない部分が多い。
- 最新のデータ特に水田の除染、土壤の減容についてもっと詳しく知りたかった。

③原子力学会員の方からいただいたコメント

- 土壤への Cs の吸着が強固であることは分かった。移動抑制方法についても
 - ・ Si/Al の Cs 吸着能力を弱める研究を進めて欲しい。
 - ・ 高温処理後にシュウ酸添加物等種々のパターンで Cs の脱離を進めて欲しい。
 - ・ 一軒の家の丸ごとクリーンシステム（P33 の資料を参考とする）を開発して欲しい。

- 説明がわかりにくかった。
 - ほとんど理解できたがより新しい情報がほしい。
 - 専門家、メーカーの講演であったが、一般の人に伝える結論以外の説明が多く、結論→理由での紹介がなされることを望む。講演の仕方が一般なり人にわかる形になっていない。学会としては講演の仕方のガイドラインを徹底すべき。
- ⑤報道関係者の方からいただいたコメント
- すごく科学的に Cs の土壤中の挙動についてまとめてあり、それをもとに今後の廃棄物処理について考案されているのでよかったです。
- ⑤その他（所属無回答含む）の方からいただいたコメント
- 現在私も研究しているのでとても参考になった。
 - 廃棄物処理でも土から水への移行への研究について、今後行う予定等詳しく伺えたらと思いました。
 - 専門的でついていけませんでした。今後、どう廃棄物処理を活かしていくか説明があってよかったです。是非活かしてほしい。
 - 企画のコメント欄に同じ
 - 土壌細菌相に対する土中の吸着 Cs の影響に関する知見があれば教えて欲しい。（土壌細菌が DNA 損傷を受けるか等）何らかの異変作用を受ける可能性があるのか。
 - Cs の挙動を詳しく御説明頂き理解が進みました。
 - Q&A とコメント、菅野先生の活動報告が特に興味深く学ぶところが多かったです。発表に時々むずかしい（わからない）ことばがありました。
(資料はアニメーションによってかくれている写真や図もプリントしていただきましたか)
 - 大変興味深かったです。更に詳細な内容を聞きたい。

(3) 放射線モニタリングと健康影響



①福島県民の方から頂いたコメント

- 今までのシンポジウム出席で初めて説明を受けて良かった。
- 労災認定についても質問についての答えが得られなかった。内部被曝の試算は福島の分はどこで調べられるのか。
- 専門家集団の学会プレゼンとは違ったプレゼンのアプローチがあつてもよかったですではないでしょうか。学術的には最新のデータに基づいた評価アプローチと理解しますが？
- 事故初期の内部被ばく線量が詳細な実際のデータに基づき試算されていることは大変意義深いと考えます。

- 良くわからなかった。いつも聞くお話の内容が多く残念だった。
- 期待するほどの内容ではなかった。(もう少し、健康影響に関する話しがきたかった)
- 当たり前の（普通の）講演内容でしたが質問者の疑問には積極的の取り組むようお願いします。
- 詳しく説明していく良かったが、質問の答えがあつていなかった。
- モデルの説明が長く実態を把握できなかった。

②福島県内自治体関係者の方から頂いたコメント

- このテーマは研究者によって様々に見解があり分かれるところである。これからこのこのテーマを取り上げていただきたい。
- 外部被ばくの人体への実効被ばく線量についてデータを収集し、発表しもらいたい。

③原子力学会員の方からいただいたコメント

- わかりやすく、内容も幅広く紹介されていて良かった。但し、Q&A では 100mSv/年の発ガン死の発生率について広島、長崎の原爆被ばくデータのデータベース数などを紹介することも必要であると考える。被ばく健康影響への Q&A を聞いていると理解されない面があるのは難しい面であると感じた。
- 被ばく線量の計算方法が理解できた。
 - ・ I-129 の測定を学会発表等していたが I-131 との比率はどの程度か？
 - ・ 内部被ばく評価に胃カメラによるサンプル採取、分析はあるか
 - ・ 原爆被ばく者の遺伝的影響は Cs 以外の影響があり、Cs のみでは遺伝的影響はないのではないか。
- 低線量に関する簡単な（基本的な）質問に回答できていない（勉強不足）
 - ・ 中身がうすい
- 分かり易い発表であった。もう少し、福島での状況を含めた評価をしてもらえればと思った。今後の研究に期待したい。
- 質問に対して適切な説明をしていない。
- レベル低い、学会の見識が疑われる。
- 追加線量と総合線量の違いが解っていないように見受けられた。

⑤報道関係者の方からいただいたコメント

- これです。このような話をもっともっと小学生にでも、一般主婦にでも分かりやすくしてやみくもに放射線・放射能汚染をおそれている人々、とにかく放射線はゼロにすべきといっている人たちにも理解できるようなお話を聞いていただきたいです。
- 医学的なことは医学の専門家に別に話してもらう方がよかったです。

④その他（所属無回答含む）の方からいただいたコメント

- 例をあげて内部被ばく線量について説明してほしい。福島市内で暮らしている場合、子供が安全であるかどうかについて説明してほしい。
- 身近な問題の※关心をひいた。（※解読不能）
- 呼吸、吸入被ばくについての知見が伺え参考になりました。
- 福島県内の当時の空気中の放射能濃度の測定値はないものと思料
- I131 被ばくのシミュレーションデータをもっと示して欲しい。後半不要。今更このハナシはいらない。
- 空気中放射性物質濃度の検討は効果が疑問
- あまりにも役人的な説明で参考になる点は少なかった。現在福島県内で問題になっているのはこの放射線と健康影響で極端に言うと 1mSv/年以上は危険という考えを多くの県民が持っている。除染を行うはどうかもこれにある。それにもかかわらず医療関係者は 100Sv/年以上は影響が出る。それ以下は不明である。だから安全と言っている。もっと県民の意識を知り、その対応を考えた説明がほしい。
- 低線量被ばくの影響についてもっと詳しく話を聞きたかった。会場からの質問にも的確な回答とはいえないかったと感じた。（この程度の質問は想定される内容だと思う。あちこちで言われていることだから）
- 基本的な事をわかり易く御説明頂き、一般の方々にはとても役に立ったと思われます。
- 屋内濃度低減計数…がよく理解できませんでした。P26, 30 ○は何を意味するのでしたっけ？P31～の資料もほしかったです。一般の人に対するシンポジウムではなく、そ

れなりに知識のある方を対象としたシンポジウムだったのですか。

- 講師の認識に疑問を感じた。

(4) 福島第一原子力発電所の状況報告

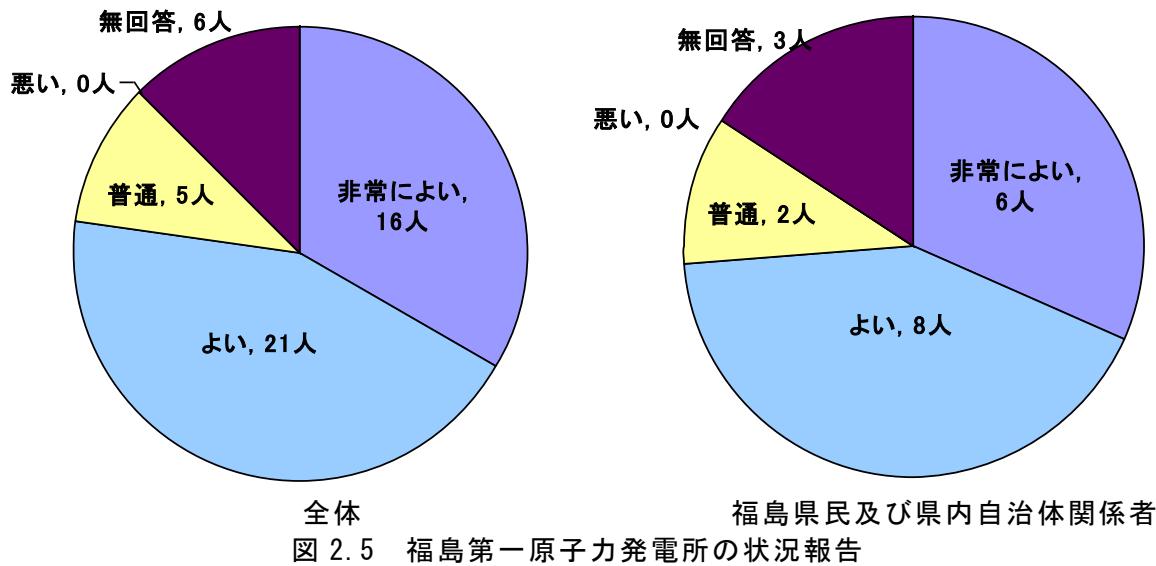


図 2.5 福島第一原子力発電所の状況報告

①福島県民の方から頂いたコメント

- 新聞、TV放送情報ではなく、廃炉を含めた東電殿の福島第一原発の状況を知る機会となった、今後も機会を捕えて報告をお聞きしたいところです。
- 社員が技術的な説明を一般向けにする事は大変良い。
 - ①現在建屋からの放射性物質の放出はないのか？
 - ②BWRに関わる電力各社の社員ならば、福一で仕事をする事は可能か？
- 東京電力という会社の存在は抜きにして安全な廃炉作業ができる様また、優秀な人材が集まれる様な体制を作ってもらいたい。これまでのトラブルは会社存続とのせめぎ合いの中での手法より発生している様に感ずる。
- 汚染水の発生メカニズム、海へ漏らさない対策について大変良く理解できました。
- 大量の情報をコンパクトに提供していただいた。
- もっと聞きたい。廃炉にむけ、作業者の安全を確保してほしい。東電社員リストラするなら廃炉カンパニーに移ってほしい。
- 新聞等で福島第一原発の状況を見る事がありますが、読むのがめんどうでついいつばしてしまう事が多かったのですが、今日、東京電力の担当の方に説明いただいて現在の原発の状況を知る事が出来、大変良かったです。廃炉作業がうまく進む様、心から祈っています。
- 資料（表）がよかったです。「絵とか」「ガンバレ東電！！」「フレーフレートウデン」
- マスコミ等で発表されているが直接説明受けたが進み具合が早すぎて大変だった。
- 非直轄の除染状況が解りました。

②福島県内自治体関係者の方から頂いたコメント

- もう少し時間をとって話しをしてほしかった。

③原子力学会員の方からいただいたコメント

- 現状と東電の努力がよくわかった。
- 現状、現場に基づいた実務者の立場から最新の状況が謙虚に紹介されていて非常に良かった。
- 参考資料は非常によい。
- 原発の現状が理解できた。特にALPSの吸着材は初めて知った。
 - ・ALPSのハイキ物の管理はどうなっているか。
 - ・線量だけでなくGeで核種別の分布も測定しているか。”

- ・現在の状況が良く分かった。
- ・困難な状況であるが、科学技術に基づいて判断して欲しい。ただし、信念をもってステークフォルダーには十分説明することが重要。原子力学会とも協力すべき。

④報道関係者の方からいただいたコメント

- 汚染水対策、いろいろ考えられていることが分かりました。私は、汚染水の放出基準が厳しすぎると思っております。しかし、決められていることですのでどうしようもありませんが。世の中いきすぎた放射線に対する恐怖を解きほぐし科学的なデータへもとづいた冷静な判断の上、汚染水対策もできたらいいなと思います。

⑤その他（所属無回答含む）の方からいただいたコメント

- 現在どうなっているのかわかりやすく説明して頂いた。
- ・大変でしうが東電さんも頑張ってください。
- ・人材確保本当に大切です。これもしっかり取り組んで下さい。
- 今までのバラバラした理解がまとまって良かった。
- ・廃炉への長い道のりを考えると若い人の専門教育をどうすべきか考えさせられた。大変難しい。
- 福島第一原子力発電所の構造等がよく理解できていないので、汚染水対策等についてよく理解できなかった。
- お話としてはよくまとまっていてわかりやすかった。
- 早く収めてほしい。頑張って対応して下さい。世界が注目しています。
- 一般市民としては偏向的なマスメディアフィルターを通した情報しかないのが現状。具体的な進捗状況がうかがえて良かった。
- （わかりやすかった）Q&Aが最も参考になった。やはり放射性のゴミ（固体、液体）の問題は大きい。問題点や苦悩されている事（報道ではわからない）に係る情報が多く興味があった。
- 内容に対して時間が短かすぎる。この時間であれば内容を絞ってほしい。

(5)福島県の取組み

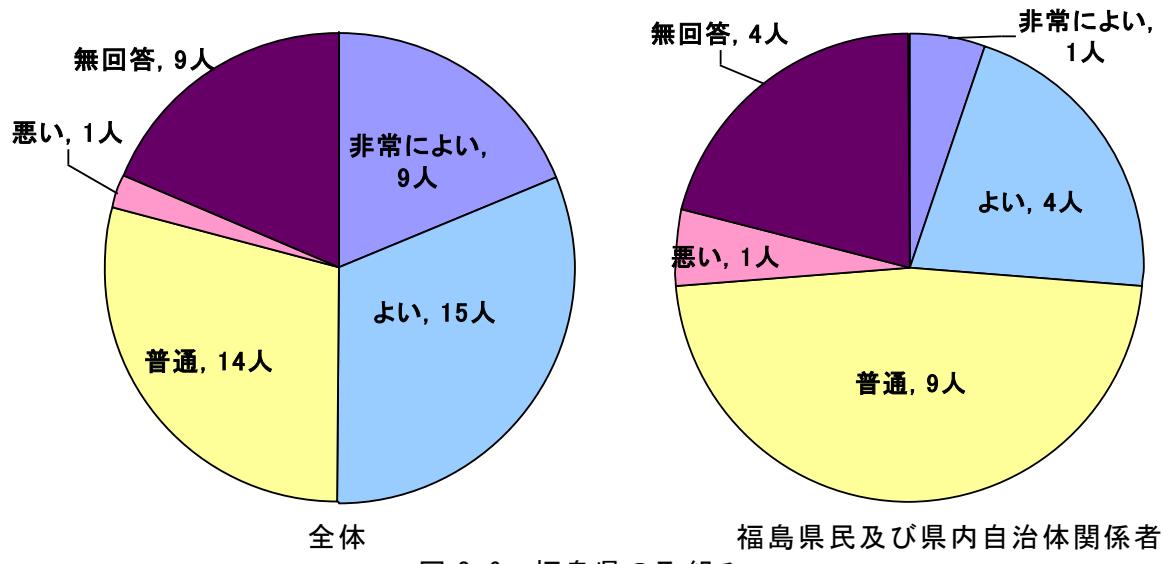


図 2.6 福島県の取組み

①福島県民の方から頂いたコメント

- 梨の除染の取り組みについて進捗を理解することができた。
- 住宅地、農地、河川など人の直接的に係る地域についての除染の進め方はお話の通りであるが、実際には山林に山菜などを採る文化があり、その様な文化の保護も考えないと山が荒れたり、文化が途切れる等があるので、そちらの方も支援して欲しいのですがいかがでしょうか？
- 少ない時間で説明する方も又聞く方も何か落ち着かなかった。
- 東京電力による廃炉状況の説明を定期的に実施してほしい。

- 市町村・業者・地域への取り組みをおぼろげに理解した。
- ②福島県内自治体関係者の方から頂いたコメント
- 福島県として今後どうしていきたいのかの話をしてほしかった。
- ③原子力学会員の方からいただいたコメント
- 福島県における除染等に係る活動の全体が良く理解できた。
 - 県の対応がよくわかった。時間が足りない？
 - 県の役割が理解できた。
 - 福島の事例を他の地域、海外に伝える材料として参考になる。
 - ・除染作業の可視化を検討して欲しい。
 - ・宮城県との除染作業の連携はないか。
- ⑤報道関係者の方からいただいたコメント
- 福島県の皆様は、福島の復旧のために何をしなければならないのかを一生懸命考え、そして実際に取り組んでおられることがよく分かりました。福島の皆さんに「やたらに放射線をこわがるな」など、とても言えない状況であることもよく分かりました。いけないのは福島県以外に住んでいる人々です。やたら原発反対とか「放射線はこわくない」と人事のように騒ぎ立てています。そうではなく何か復旧にむけて知恵と労力を出すことが大切だと肝に命じます。
- ⑥その他（所属無回答含む）の方からいただいたコメント
- もう少し時間がほしかったがとてもよい内容であった。
 - 理解できた。
 - 除染作業が進んできている中、住民の方あるいは関連 NPO 等団体の方がどのように感じているか聞ける場があれば良いと思います。
 - 分かりやすい説明だった。
 - 県民市民の方々の生の声が Q&A できけたこと。お話をもつねに市民に接している事もあったかわかりやすかった。県民市民の感覚と県の数字と合わないこと、コミュニケーションの重要性を確認しました。

2. 3 今後の企画について

(希望する催し、テーマ、講師、時期)

- ①福島県民の方の希望等
- 講演を聞くだけでなく、話し合いの出来る場が設定されたら良い。
 - 東電福島第一原発の廃炉に向けた進捗については継続的に機械を捕えて報告頂く機会を希望します。(時期：4月頃)
 - 東電社員の参加/農作物のセシウム移行について(時期：日曜日にというのは良い)
 - テーマ
 - ・初期の放射性ヨウ素の人体影響の評価について
 - ・0.23mSv の無意味さについての世論形成について
- 講師
- ・泉田新潟県知事
 - ・放射線相談室 すみだ氏
- ぜひ知見、考え方をお聞きしたい。(時期：四半期に1回開催いただければありがたいです。)
- 低線量下でバックグラウンドの影響により除染しても下がらないという事実がある一方、仮置場等はかなり下がる事の科学的な説明が聞きたい。
 - テーマ：除染コスト、除染目標
- 講師：産総研 中西準子氏
- 本日のテーマの次々として「除染とは何ぞや」「低線量被ばくとは何ぞや」をはじめに考え、意義ある内容にしていただきたい。事故後の環境回復の取り組みなのですね。(時期：8ヶ月後～1年後)
- ②福島県内自治体関係者の方の希望等
- 生活における実効被ばく線量について研究データ収集等を行い発表してもらいたい。
- ③原子力学会員の方の希望等
- ICRP の 100mSv 被ばくでガン死 0.5% 増の意味を正確に伝える必要あり

- 個人線量と空間線量率との関係についてもっと科学的結果に基づいたシンポジウムが望まれる。例えば放医研、福島医大など。(時期：1回/年ぐらい)
- 低線量被ばくの専門家の見解(時期：タイムリーに開催を希望)
- 今回と同様な企画でよい。(時期：適宜この場所で実施してほしい。)
- 除染の取組みの作業者であるゼネコン関係者にも発表、報告してもらってはどうか。学会のテーマとしては、研究調査及び解析評価に基づく講演が適切であると考える。政策的な話は適切に国や自治体のスピーカーを選任していただければ良いと考えます。(時期：都知事選、選挙時期など原発に関心の高まる時期をとらえて。)
 - 除染技術のメーカ説明会
 - T M I の溶融燃料の処理
 - チェルノブイリ事故、広島、長崎の原爆の遺伝的影響は福島事故と違うこと

④報道関係者の方の希望等

- 学校教員等への正しい放射線の知識を学ぶ会などあればよいと思います。(時期：いつでもよいと思います。)
- 廃炉、除染などテーマごとに聞き、一つのテーマに複数の専門家に話をしてもらうのが理解してもらいやすいのではないか。

⑤その他（所属無回答含む）の方の希望等

- 低線量被ばくの影響については、会場からも見解を異にする質問があったがわかつてること、わからないこと様々な意見があること等データを示しながら大勢（専門家の中で最も支持されている考え方）を示して欲しい。
- 各市町村 除染ご担当者の方（実態のお話を聞くこと重要）(時期：そのつど)
- 講演の数を少なくして質問や講師と出席者との話し合い（討論）もあってもよいのではないか。
 - とてもすばらしい企画で大変勉強となりました。(時期：2~3ヶ月に1回位あるといい。)
- 福島市内で住民がいつになつたら安全・安心に暮らしていけるのか？（特に幼児、子供について）(時期：1月又は2月頃)
- 放射線防護の諸線量の説明、防護量と実用量、実用量導入の経緯等
講師希望 J A E A の遠藤章氏(時期：2014年内)

2. 4 その他

（日本原子力学会への要望その他、気づいた点）

①福島県民の方の要望等

- 周知（一般向け）をもっと強化して欲しい
- 今が事故の影響で放射線が高い状況（現存被ばく状況）であることを認識して、除染の現存目標を 5mSv/年とすること、さらに空間線量率から実効線量への換算係数を実績から算出した 0.4 度を採用して除染実施エリアの見直し縮小のための提案を行なって下さい。
- 現在、進んでいる福島県が見える内容はとてもいいと思うのでもっと多くの市民参加があつてはどうか。
- ありがとうございました。又よろしくお願ひ致します。

②福島県内自治体関係者の方の要望等

- なし

③原子力学会員の方の要望等

- もっと一般市民の参加が望まれる。
- この種の活動は良いこと、もっと新聞、テレビ等への PR をして実施して下さい。
- 学識経験者という面で信頼のある立場であるが、肝心の講演の仕方が手落ちにならないようにすれば、テーマ企画についての不足はないと思われるので引き続き伝え方に留意して継続いただきたい。
- 2014 年 1 月号の原子力学会誌で宇野氏が「福島は第 2 のチェルノブイリにならない」としておられるが、これをもう少し詳しく分析して、原子力学会自体が声明として発表してはどうか。

④報道関係者の方の要望等

- 原子力事故で出る放射性物質と自然界にある放射性物質は根本的にどこが同じでどこが違うのか、一般市民にも分かるように説明された本や資料など発刊していただくとうれしいです。(もうすでにあるのかもしれません…)

⑤その他（所属無回答含む）の方の要望等

- 学会（専門家）としての見解をもっと発表してほしい。事故直後と違い、世間も少し感情的にならずに意見を聞くようになっているのではないか。
- 参考文献
- 配布資料について データの識別や地図上の色分け、写真が多い等を考えると白黒印刷では後で資料を見るときに意味を成さない（分からぬ）。どうしても色で識別表示しているデータについてはカラー印刷をお願いしたい。
- 栃木県でもシンポジウムは無理か？

附録 アンケート集計総括表

項目	回答	非常によい	よい	普通	悪い	無回答	計
企画		10人 20.8%	25人 52.1%	4人 8.3%	0人 0.0%	9人 18.8%	48人 100%
①除染の状況報告		6人 12.5%	24人 50.0%	15人 31.3%	1人 2.1%	2人 4.2%	48人 100%
②Csの土壤中の挙動及び構造と廃棄物処理		8人 16.7%	25人 52.1%	10人 20.8%	2人 4.2%	3人 6.3%	48人 100%
③放射線モニタリングと健康影響		6人 12.5%	14人 29.2%	20人 41.7%	5人 10.4%	3人 6.3%	48人 100%
④福島第一原子力発電所の状況報告		16人 33.3%	21人 43.8%	5人 10.4%	0人 0.0%	6人 12.5%	48人 100%
⑤福島県の取組み		9人 18.8%	15人 31.3%	14人 29.2%	1人 2.1%	9人 18.8%	48人 100%